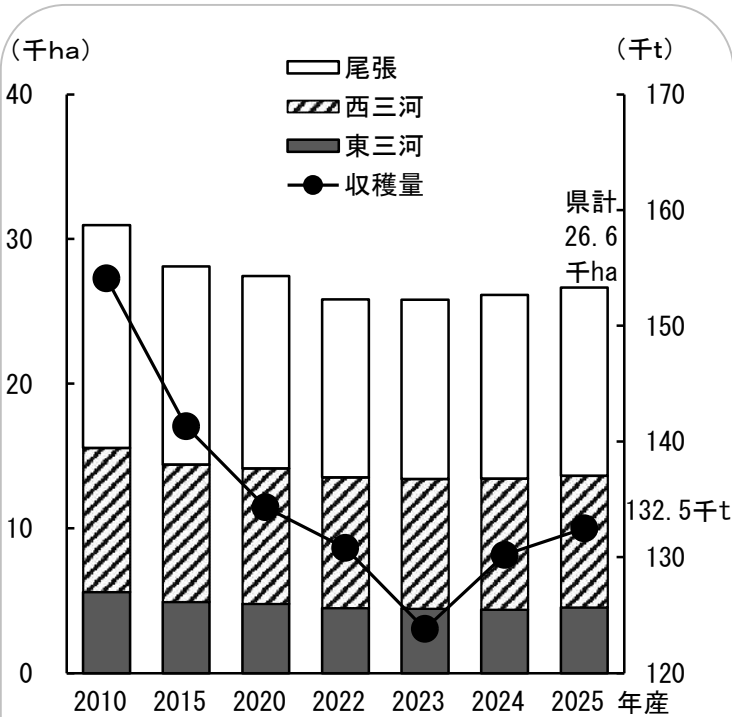


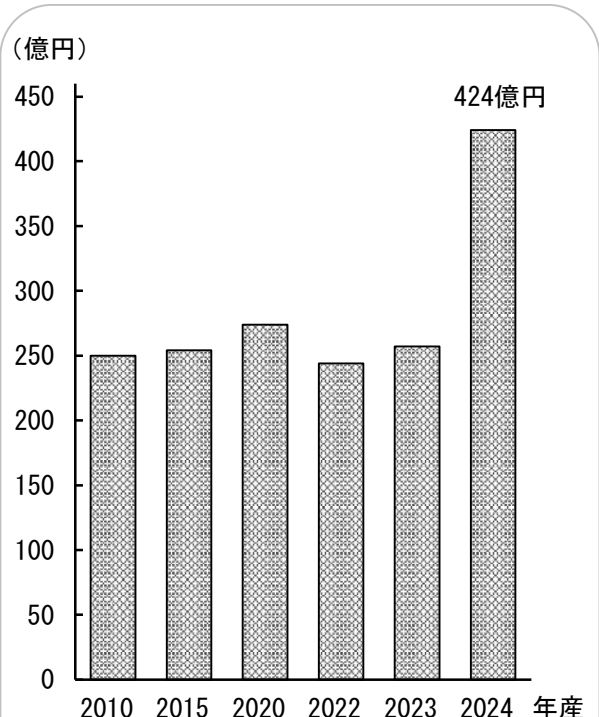
稲(米)・麦・大豆

《稲作付面積と収穫量の推移》



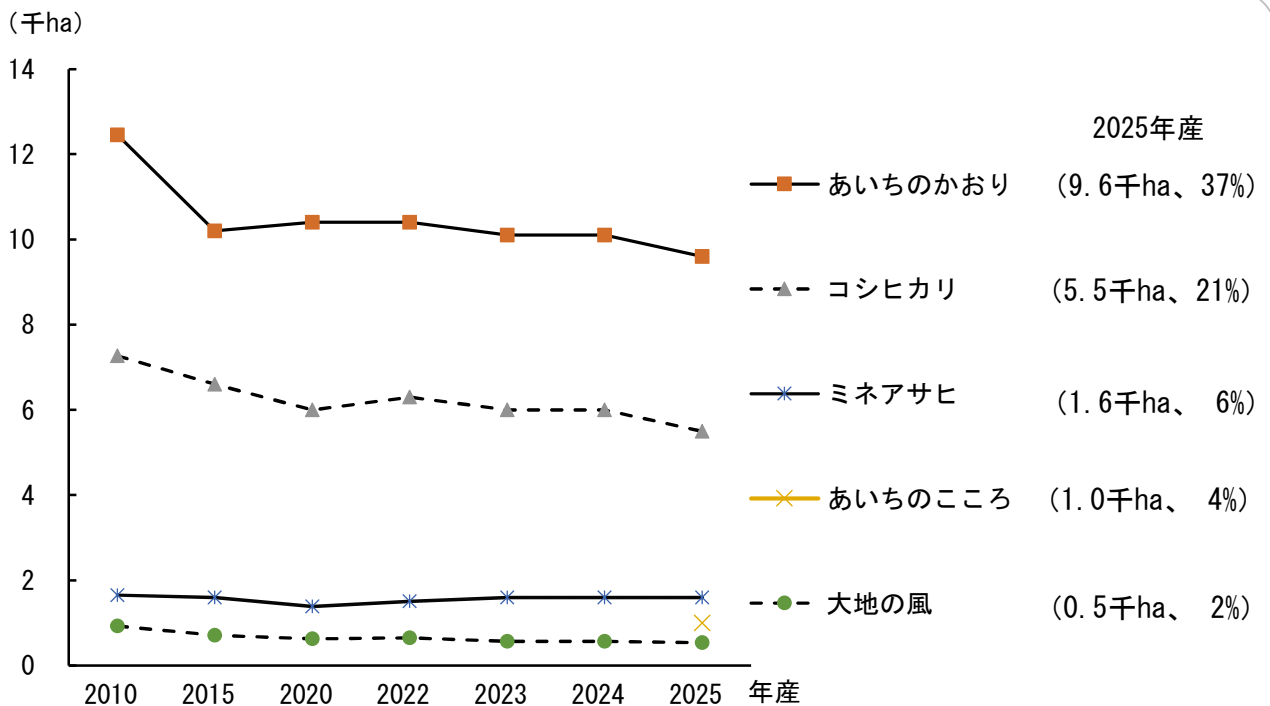
(出典：作物統計)
 稲の作付面積、収穫量とも減少傾向であったが、2024年産から増加している。2025年産の10aあたり収量は498kgで、「作況単収指数※」は101であった。
 ※2025年産から、従来の「作況指数」を廃止し、より実態に合う指標として導入された指数。直近5か年中3年平均(最高、最低除く)に対する10aあたり収量の比率を示す。

《米産出額の推移》



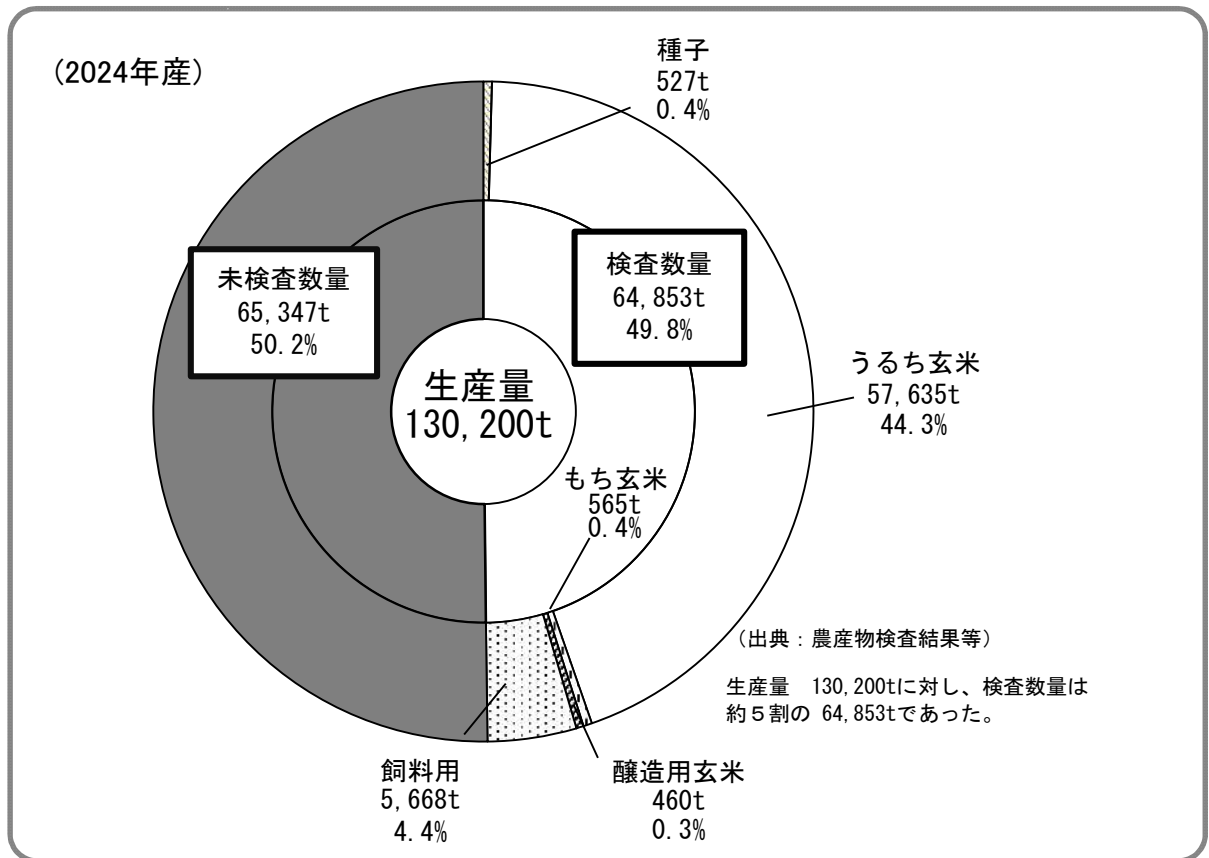
(出典：生産農業所得統計)
 2024年産は需給逼迫・コスト増により米価が大きく上昇し、産出額の増加につながった。

《稲主要品種の作付面積の推移》



(出典：園芸農産課調べ等)
 県内で400ha以上の作付がある品種の面積(推定値)
 2025年産から高温耐性品種である「あいちのころ」の一般栽培が始まった。

《愛知県産米の農産物検査数量》

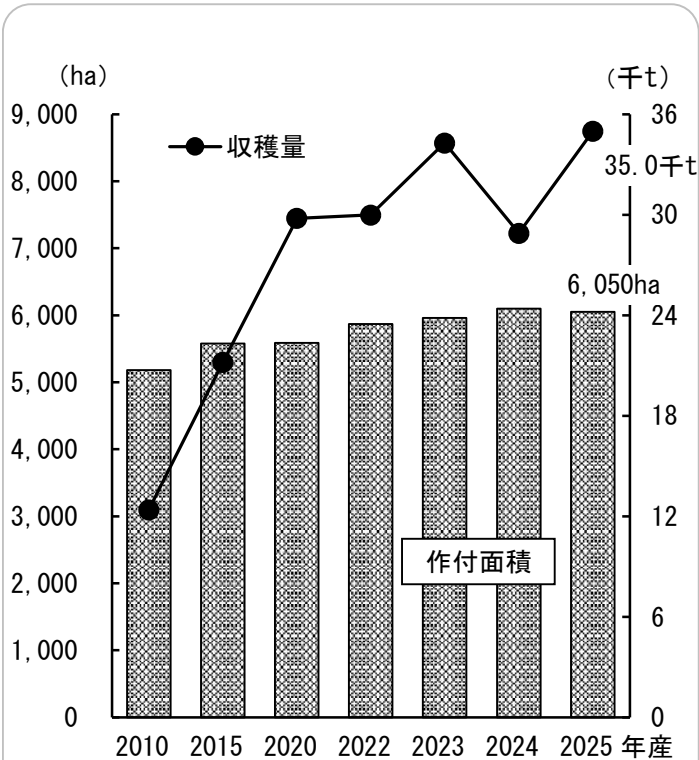


《稲・麦・大豆の作付体系》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
水 稻 (極早生)				◎	—	—	△△	□				
(早 生)				◎	◎	—	—	△△	□			
(中 生)				◎	◎	—	—	△△	□			
(晩 生)					◎◎	—	—	△△	□			
不耕起V溝 直播栽培 (整地)			○	○	—	—	△△	□				
小 麦				△	□						○	○
大 麦				△	□						○	○
大 豆 (フクユタカA1号)						○	○	△△	—	—	□	

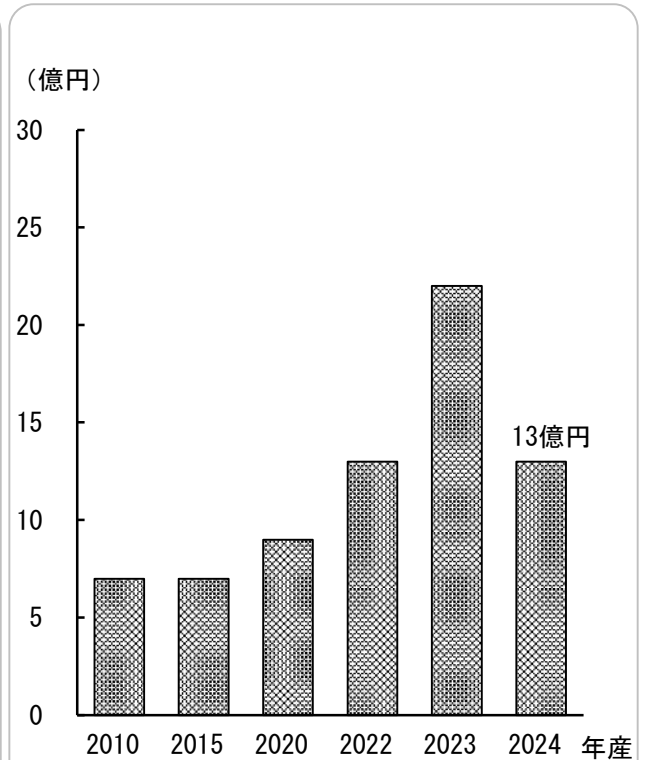
凡例： ○ ◎ △ △ □
播種 移植 出穂/開花 収穫

《小麦作付面積と収穫量の推移》



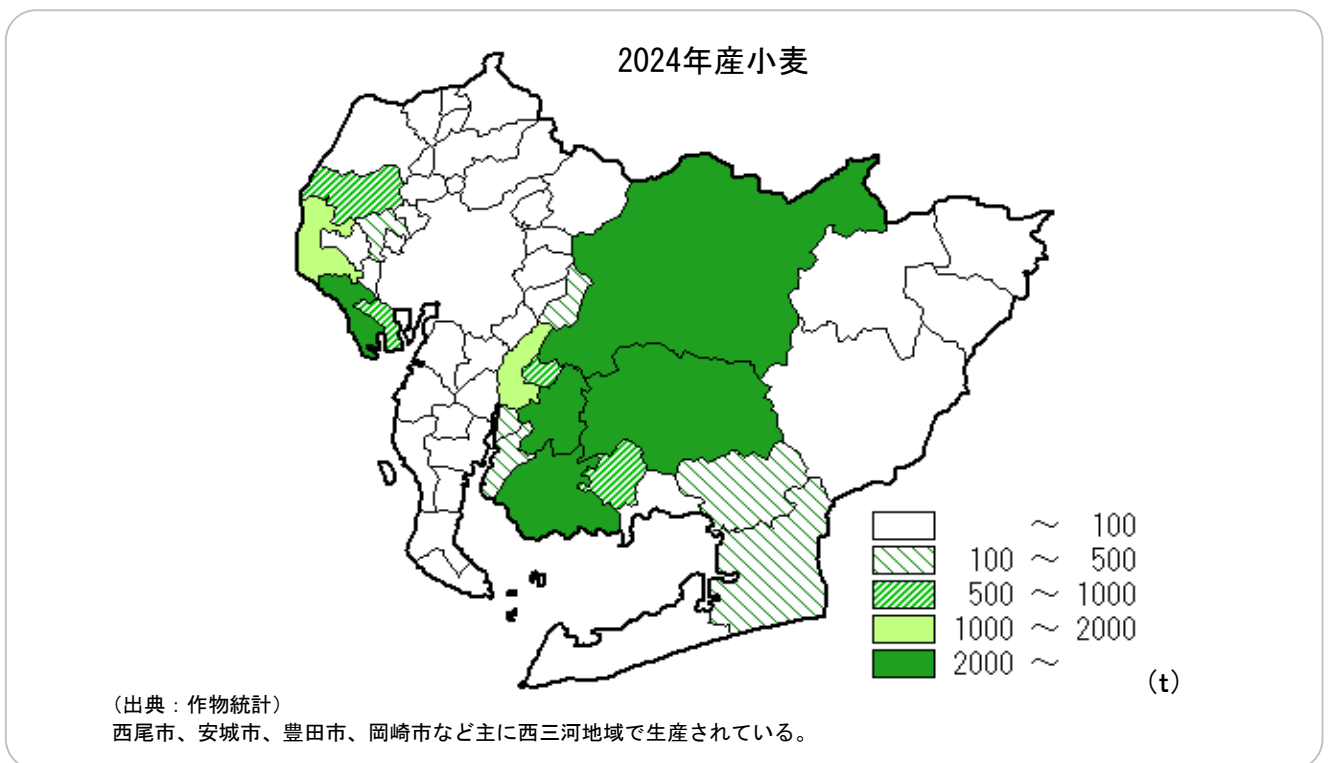
(出典：作物統計)
 近年の作付面積は6,000ha前後で増加傾向。
 収穫量は、「きぬあかり」が導入された2012年産以降増加し、
 10aあたり収量は2018年産から3年連続全国1位となった。
 その後も、全国トップ水準を維持しており、2025年産の10aあたり
 収量は579kgで、導入以来最も高かった(全国1位)。

《小麦産出額の推移》



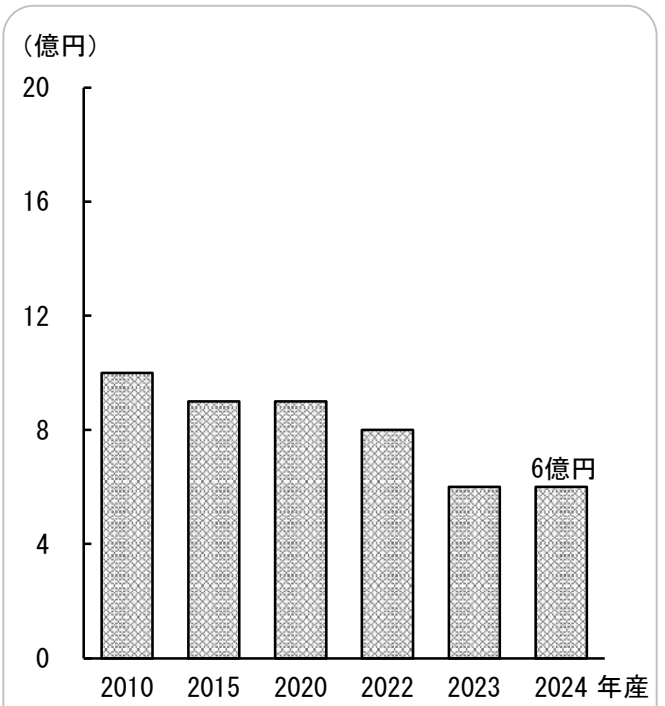
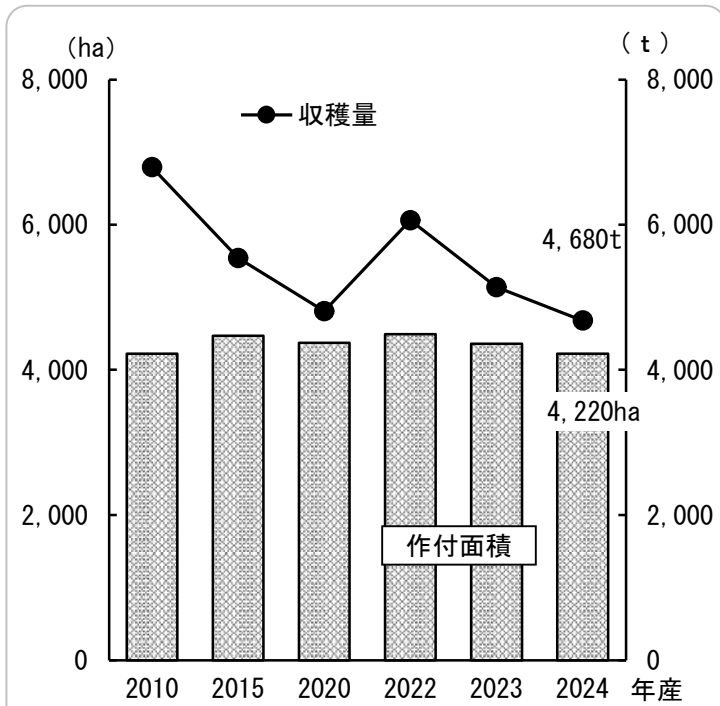
(出典：生産農業所得統計)
 2007年産以降、経営所得安定対策等の助成金額が産出額に
 算入されないことになった。
 国内産麦の価格は外国産麦の価格の影響を受けるため、変
 動がある。2024年産は、収穫量の減少と落札価格の下落の
 影響で減額した。

《小麦の市町村別収穫量》



《大豆作付面積と収穫量の推移》

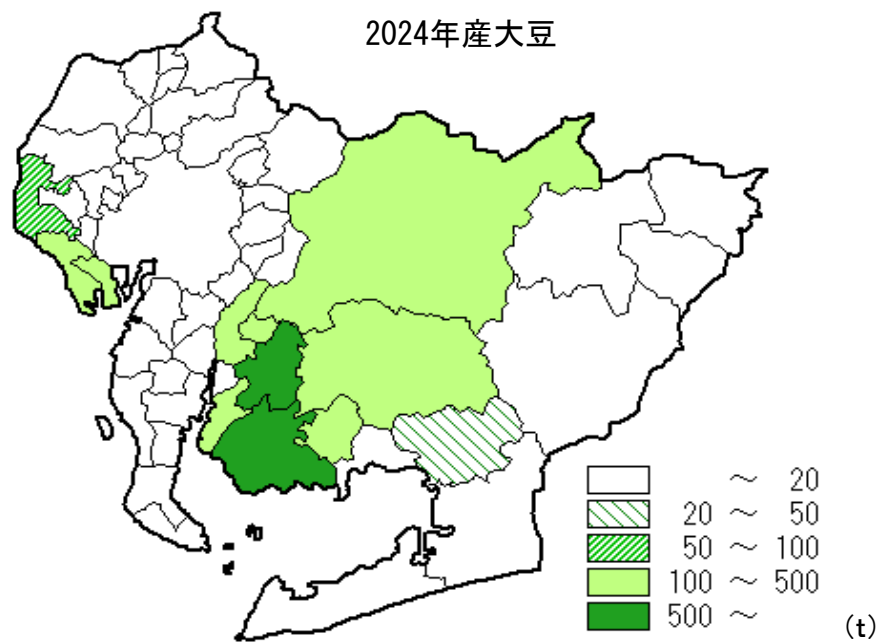
《大豆産出額の推移》



(出典：作物統計)
 近年の作付面積は4,500ha前後。
 作柄の変動が激しく、2018年産以降不作が続いた。
 2020年以降に栽培された品種はすべて「フクユタカA1号」。

(出典：生産農業所得統計)
 作柄の変動が激しいため、価格の変動も激しい。
 県産大豆の価格は、高い需要を反映して以前は全国平均と比較して高い傾向にあったが、2020年以降、全国平均よりも低くなっており、産出額も減少している。

《大豆の市町村別収穫量》



(出典：作物統計)
 大豆は西尾市、安城市、岡崎市、豊田市などの西三河地域、弥富市などで主に生産されている。